

小山工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	建築史 I
科目基礎情報					
科目番号	0055	科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	建築学科	対象学年	4		
開設期	後期	週時間数	2		
教科書/教材	日本建築学会編「日本建築史図集」「図集日本都市史」「近代建築史図集」				
担当教員	安高 尚毅				
到達目標					
1. 生活環境および文化と建築の関わりについて明確に説明できる。 2. 日本の原始、古代、中世、近世、近代、現代の建築の潮流について説明できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	生活環境および文化と建築の関わりについて明確に説明できる。	生活環境および文化と建築の関わりについて説明できる。	生活環境および文化と建築の関わりについて明確に説明できない。		
評価項目2	日本の原始、古代、中世、近世、近代、現代の建築の潮流について説明できる。	日本の原始、古代、中世、近世、近代、現代の建築の潮流について説明が不十分。	日本の原始、古代、中世、近世、近代、現代の建築の潮流について説明できない。		
評価項目3					
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	この講義では、日本の現代生活空間がいかにかに成立してきたかを、建築史を基本とし、時系列に沿って講述する。日本の生活空間の歴史的展開を、古代・中世・近世・近代・現代の5期に分けて講じる。現代の生活空間の履歴解説に資するため、その基を形成した近世を特に重視し、歴史の講義では一般的でない近世の展開である近代・現代についても講ずる。本講義の目的は、日本建築における基本的知識を習得するとともに、現代日本の空間を読み解く能力を養い、都市や建築が単なる生活の必要だけで成立しているのではなく、芸術的、社会的、哲学的背景をもっていることを認識することである。よって、講義全体は必ずしもクロノジカルに並んでいるわけではないことを付け加えておく。				
授業の進め方・方法	スライド資料とプリントにより授業を進める。				
注意点	1. 日本の歴史的建造物や町並みに関する情報を日頃から収集し、理解を深めてほしい。 2. 京都・奈良での名刹を直に接することを推奨する。 3. 事前学習として指定した資料を読了しておくこと。 4. 事後学習として課題の提出を求める。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容		週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	はじめに		歴史学とは何か、日本とは何か、建築史とは何か、日本建築の特質とは何かを説明できる
		2週	日本古代の生活環境 (その1)		原日本の建築と都市的場を説明できる
		3週	日本古代の生活環境 (その2)		都城と宮殿、平城京、平安京を説明できる
		4週	日本古代の生活環境 (その3)		神社と寺院、平等院鳳凰堂、寝殿造りを説明できる
		5週	日本中世の生活環境 (その1)		貴族と武家の建築、なぜ新興宗教が生まれたかを説明できる
		6週	日本中世の生活環境 (その2)		中世の境内と町、邸館と町屋を説明できる
		7週	日本中世の生活環境 (その3)		寝殿造りから書院造へと戦国城下町を説明できる
		8週	中間試験		日本古代・中世建築の概要が説明できる
	4thQ	9週	日本近世の生活環境 (その1)		境内の解体と町の解放、京都の近世都市化、織豊政権の城下町建設、茶室の隆盛を説明できる
		10週	日本近世の生活環境 (その2)		城下町の都市空間を説明できる
		11週	日本近世の生活環境 (その3)		在方町と農村集落の空間を説明できる
		12週	日本近世の生活環境 (その4)		三都の巨大化、民衆の都市空間を説明できる
		13週	日本近現代の生活環境 (その2)		城下町の近代化と日本近代建築を説明できる
		14週	日本近現代の生活環境 (その3)		機能主義の建築を説明できる
		15週	日本近現代の生活環境 (その4)		丹下健三から安藤忠雄までの現代日本建築の歴史的展開を説明できる
		16週	期末試験		日本建築史の概要が説明できる
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	工学基礎	グローバル化・異文化多文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	1	
			様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。	1	
			異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	1	
			それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。	1	
専門的能力	分野別の専門工学	建築系分野	現代社会における都市計画の課題の位置づけについて説明できる。	1	
			近現代都市の特質と課題について説明できる。	1	

			近代の都市計画論について説明できる。	1	
			モジュールについて説明できる。	1	
			原始(例えば、竪穴住居、高床建築、集落など)の特徴について説明できる。	4	
			古代(例えば、住宅建築、寢殿造、都市計画、神社建築、寺院建築など)の特徴について説明できる。	4	
			中世(例えば、住宅建築、神社建築、寺院建築(大仏様、禅宗様、折衷様など))の特徴について説明できる。	4	
			近世(例えば、住宅建築、書院造、数寄屋風書院、町屋、農家、茶室、靈廟、社寺建築、城郭)の特徴について説明できる。	4	
			日本および海外における近現代の建築様式の特徴について説明できる。	4	

#### 評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	100	0	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0